

スケジュール管理は 手帳がいい 女子学生応援セミナー



文&写真 学生記者 矢嶋万莉子(法学部3年)

就職活動を控えた11月9日、中央大学多摩キャンパスで「女子学生応援セミナー」が開催された。就職率の上昇が話題になりつつも、現実はまだまだ厳しいまま。特に女性は、就職してからも人生設計のなかで結婚・出産・育児と難しい選択を迫られるときがある。女性の、女性による、女性のためのセミナーが幕を開ける。主催は中大学員会女性白門会で、長く女子学生の進路選択や就職を支援している。

1 講演会 表現力と勇気を武器に

講師は「日経CNBC」経済専門チャンネルでキャスター、フリーキャスターとしても活躍中の曾根純恵さん。中大経済学部の卒業生である。「表現力はとても必要です」

相手にわかりやすく、それでいてシンプルに思いを乗せて伝えることが重要だという。「人生において、道を開いていくのは自分の勇気。そのためには“これ”と思ったことをスパッ

と相手に伝えることが大切です」と言う。

アナウンサーの仕事に就いた4年目、曾根さんは思い切って上司に「記者のような仕事をしてみたい」と願い出た。希望は叶い、経済市場を見ながら取材し、原稿を書き、レポートする仕事を任された。

自分の描く「やりたいこと」を勇気を出して伝えたからだ。

そこに至る前、入社早々のころは「この先3年間は与えられている仕事をしっかりこなそう」と心に決めて、働いてきたという。

激しい競争社会で3年間、メディアの最前線で働くことは大変だったと思うが、苦労は笑顔に隠されていた。

話の途中、曾根さんから会場に提案があった。

「目を閉じて、胸に手を当てて自分がどのように思い、何をしたいか考え



「本当の自分を見つめて」と、講師の曾根さん

目を閉じて胸に手を当てて、 自分がどのように思い、 何をしたいか考えてください。

てください」

毎日だけでなく、たまに自分について考えてみる。将来のことを人と話してみる。

そうすることで「あっ、自分はこんなこと思っていた」と発見できるものが

ある。「就活は相性もあります。めげずに頑張ってください」

入社後、理想と現実のギャップに苦しまないためにも、未発見部分を含めた本当の自分を見つめることが大切。

最後に安倍首相が推奨する言葉を引用してエールを送ってくれた。

「これからの日本には、女性の力が必要です。身体も心も健康で、頑張ってください」

内定者が語る就活体験

2 ここが知りたい! リアルな就活裏話

先ごろ就活を終えたばかりで既に希望の内定先を得た中大生が、それぞれの経験を踏まえてパネルディスカッションに参加した。

参加者は法学部の長見英里奈さん(金融内定)、経済学部の鈴木香澄さん(広告内定)、文学部の川本絢子さん(メーカー内定)の3人。

司会者の投げかける「ここが知りたい」に丁寧に答えてくれた。

内定先に売り込んだ 自らの強みとは?

鈴木さん 「中学・高校と生徒会長に就任するなど、世話好きなところをアピールしました」

長見さん 「接客のアルバイトを経験したので、人と接する仕事をしたと言いました」

ワークライフバランスは どうやって 見極めましたか?

長見さん 「説明会で女性の人事登用をアピールしている会社には注目しました」

鈴木さん 「OBOG訪問です。中大の先輩はもちろん、高校の先輩や人に紹介してもらったりしました」

就活で辛かったのは?

川本さん 「想定していた質問とは全く違った質問がきました。でも『芸能人に例えると?』という質問に『アニメでもいいですか?』と前置きして答えたら盛り上がりました」

長見さん 「私は内定をもらえるのが遅かったので、ほかの就活生と会うのが辛かった。適度に情報交換しつつ、友人と会わないのも一つの手だと思います」

スケジュール管理が 大変だと思いますが?

鈴木さん 「パソコンを使って手帳を作りました。スマホに頼りすぎるのは怖いので」

川本さん 「私も手帳に書き込んで



パネルディスカッション参加者。左から長見さん、鈴木さん、川本さん

いました。息抜きはできなかつたけれども、人それぞれだと思います」

就活でこれだけは やっておいたほうが 良いことは？

長見さん 「自己分析ですね。何を強みにして話すか、ここが決まらないとESも書けません」

鈴木さん 「SPIテスト対策。それとインフルエンザの予防接種はしてお

いたほうが良いです」(SPI=適性検査でコミュニケーション力、計算力などが試される)

川本さん 「企業分析です。HPを見る、説明会で質問するほか、経営理念などもチェックしてください」

後輩へのアドバイスを お願いします

川本さん 「面接は笑顔が大切。緊張すると顔がこわばれるので、笑顔

や声を高くすることを意識してください」

鈴木さん 「男女雇用機会均等法ができてから、女性の活躍の場の広がりはできましたが、自分でちゃんと職を持つんだ!と強く思ってください」

長見さん 「服装などの第一印象は大切です。お店で就活用のメイクを聞く、スーツは体に合うものを選ぶなど気を配ってください」

3 企業で活躍するOGからのメッセージ

三菱東京UFJ銀行、本田技研、キヤノン、JALスカイ、ロート製薬、インテリジェンス、ソフトバンクテレコム、ミクシマーケティング、中小企業基盤整備機構など多様な分野で活躍するOGの参加があった。

まずOGの方々からフロアーの学

生たちに、就職活動に関する具体的なことや女性のキャリア形成の話などを率直に聞いて欲しいとのメッセージがあった。

その後、企業ごとに分かれ、学生たちは興味のある企業のOGのもとに集まり、仕事の実際や就職活動の

ESにいたるまで本音で質問を投げかけていた。

OGからは、仕事を経験しているからこそ言える、働く楽しさ、そして厳しさも含めた丁寧な話があり、学生たちは熱心に耳を傾けていた。



学生記者の思い 矢嶋万莉子

このセミナーには多くの参加者が集まった。準備の早い2年生や保護者も多く、質疑応答では積極的に発言する人もいた。心配顔の母親は女子学生の就職に不安を感じ、厳しい社会情勢の中でも、いい会社へ、と望んでいるようだ。

講演や内定者報告会では、難関を突破し、たくましく働く先輩たちのきらきらした姿を目に焼き付けることができた。受講者には

大いなる勇気となった。

「OGとの懇談会」では、社会で働いているOGと在校生が交流した。はじめは緊張した様子だったが、打ち解けるうちに笑顔も増え、中には「それをきくの?!(笑)」なんて反応のOGも。今回のセミナーを糧に、辛い苦しいという印象の就職活動を乗り越え、社会へぜひとも力強く羽ばたいて欲しい。